

### ひじりの声 上田藤市郎

過日、思いがけないことに市内の中学校で一か月余の間、英語の授業をすることになった。最終日に一年生の生徒を前に話をした。既に、生徒が学んだ英語の単語は、「親切な人に親しみやすい、快活な、穏やかな、礼儀正しい」などであった。これらの人柄を表すことばは、そのような態度を身に着けた人が、英語を話す人の中に実在したからこそ、これらの言葉が今も伝えられているのです。

みなさんは、言葉を学ぶとき、その単語をただ、覚えるのではなく、自分もそのような人柄を備えた人間になるように努力することが大切で、そういうことを続けていけば、みなさんはきっと、「美しく、賢い人になって、他の人から尊敬される」ようになります。私たちは、お化粧したり着飾ったりして自分を美しく見せようとしますが、それは内面の美しさではありません。他方、人を傷つけるような悪い言葉も存在しますが、これらを避けていくことが大事です。

言葉を学ぶということは、それを使えばいいのではなくて、自分の生活態度に反映させることです。

藤樹先生は、中国の書物を独力で学んで、人間の生き方にかかわる名言を紹介しておられます。しかもそれを自ら実践しようと努力された稀有な方であることがわかります。

### 「中江藤樹・心のセミナー」を開催しました

「中江藤樹・心のセミナー」は、広く市内外の皆様に藤樹先生をもっと身近に知っていただきたいと願って、フォーラム委員会の企画・運営により、例年の時期に開催してきました。

平成三十年度は、二月十六日(土)の午後、安曇川公民館ふじのきホールにおいて開催し、市内六十名、市外からも十五名の方が来場されました。

### 高島藤樹会の活動

当日は、東日本国際大学東洋思想研究所の高橋恭寛先生の『明治百五十年をむかえて、中江藤樹の教えをどう活かす』と題したご講演を拝聴しました。①「江戸中期の藤樹学、②幕末から明治にかけての中江藤樹の教えがどう展開したか、③明治維新百五十年の今、中江藤樹の教えをどう活かすのか」とのサブテーマに沿って、お話しくださいました。参会者一同、高橋先生の熱弁と饒舌に圧倒されながら、多くのことを学ぶことができました。

### 「立志祭」での『よえもん君フリーファイル』の贈呈

藤樹先生の誕生日である三月七日の前後に、九歳の頃の藤樹先生の思いを知り、今の自分を見つめ、自分の志を持つための足がかりとするために市内の全小学校の三年生を対象に、「立志祭」が実施されています。そこで、高島藤樹会では三年前からその「立志祭」において、広報・啓発活動の一環として、「五事を正す」とキャラクター「よえもん君」を印刷したクリアファイルを三年生全員に贈呈してきました。



今年度は市内九か所(地域合同開催もあり)で実施された「立志祭」に、該当地域の理事、もしくは校長先生から三年生にクリアファイルを渡していただきました。なお、当日「立志祭」に向いて、「五事を正す」などについてのお話をする時間をいただけた会場もありました。

お世話いただきました理事の皆様、ありがとうございました。

### 朽木西小学校での立志祭

三年生は一人でしたが、全校児童四人が参加して立志祭が行われました。地村校長先生のお話、頌徳歌(ことうとくか)の斉唱、「私の志」発表、藤樹紙芝居、藤樹カルタ会等の内容でした。ファイル贈呈では、「藤樹先生のすごいところ」や「五事を正す」の話を添えました。児童一人一人の明るい表情と真剣なまなざしがとても印象的でした。(広報委員会)



「私の志」の発表

### 藤樹カルタ会



選手の話で盛り上がりました。三月三日(日)午後、第91回人間学塾を安曇川公民館で行いました。

「中庸解」の第二章を学びました。中庸の道は、天地万物に広く行き渡っているが目に見えず耳にも聞こえないので知り難い。しかし凡人でも努力すれば知ることができる。天地は大いなる存在であるが、万人を益することはできない。それで人は自分の思い通りにならない時に天を恨むことがある・・・。

そこで曾野綾子さんの対処法を紹介しました。自分の周りに存在するものがすべて善きものと思えば呪わなきやならないことがなくなるし、辛いことがあっても人生が楽しくなる。幸福に生きるためには、できたら与えること・・・。

塾が終わってから場所を替えて懇親会を行いました。生かされているこのいのちに感謝して、酒を酌み交わし談笑しました。

四月六日(土)午後、第91回人間学塾を安曇川公民館で行いました。

最初に、先日TVで日本人女性(長谷川昌美さん・冒険家の故長谷川恒夫さんの妻)が自費に加えて寄付金を募って、パキスタンの山間地の村に男女共学の学校を建設し、沢山の卒業生が社会で活躍するようになって現地の

### 藤樹人間学塾... 藤樹思想を学ぶ実践ある

塾長 田中 清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生の著書を中心に藤樹思想を学ぶとともに、今日的意義を自分の頭で考え、仲間と議論しながら考えを深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月原則第一土曜日の午後、開催しています。本稿ではその模様をお伝えいたします。

一月五日(土)午後、第89回人間学塾を安曇川公民館で開催しました。大津からの初参加者を含めて11名の参加でした。

最初に「人生の壁、偉人はどうした」等の記事の紹介をしました。「中庸」を素読後、『中庸解』の第十章「子路、強を問う」を学びました。孔子の弟子で名高い勇者の子路が聖人の道を目指す中で惑い、孔子に強とは何かを問います。孔子は、強には南方の強(無道な相手をも許す強さ)と北方の強(困難でも筋を立てて実行する強さ)があり、物欲に流されず、物に偏らず、中庸を保ってあらゆる変化に対して二つの強を使い分けることが「至極の強」だと教えます。これを実践した人物は西郷隆盛やガンジーではないかと話しました。

フリートリーキングでは、まず二つの強を身に着ける必要がありそれを臨機応変に対応しようとすると中庸等を学



んでいる自らの判断力が問われるという意見や日常生活の中で中庸をベースに考える必要があるという意見等が出ました。

二月二日(土)午後、第90回人間学塾を安曇川公民館で行いました。

冒頭、テニスの大坂なおみ選手の心の整え方の話をした後、『中庸解』の第十一章を学びました。聖人の教えが薄らいだ世になると、中庸を十分理解できず異常な教えを唱える詭弁者のような人物が現れる。しかし君子はそういう教えにはくみしない。徳のある君子(知識人)は、優越感のような惑いがなく、人の目を気にせず、自分で天眞の樂を楽しんで、休みなく努めて手を止めることがないので、終に聖人の域にまで到ることができる。中庸は心の平和につながります。フリートリーキングでは、大坂なおみ

### 【藤樹人間学塾 今後の予定】

- 五月十二日(日) ◎六月一日(土)
- 七月六日(土) 八月四日(日)
- ◎九月一日(日) 十月六日(日)
- ◆時間 十五時~十七時(原則)
- ◆場所 安曇川公民館

◎印は塾終了後、別場所で懇親会あり